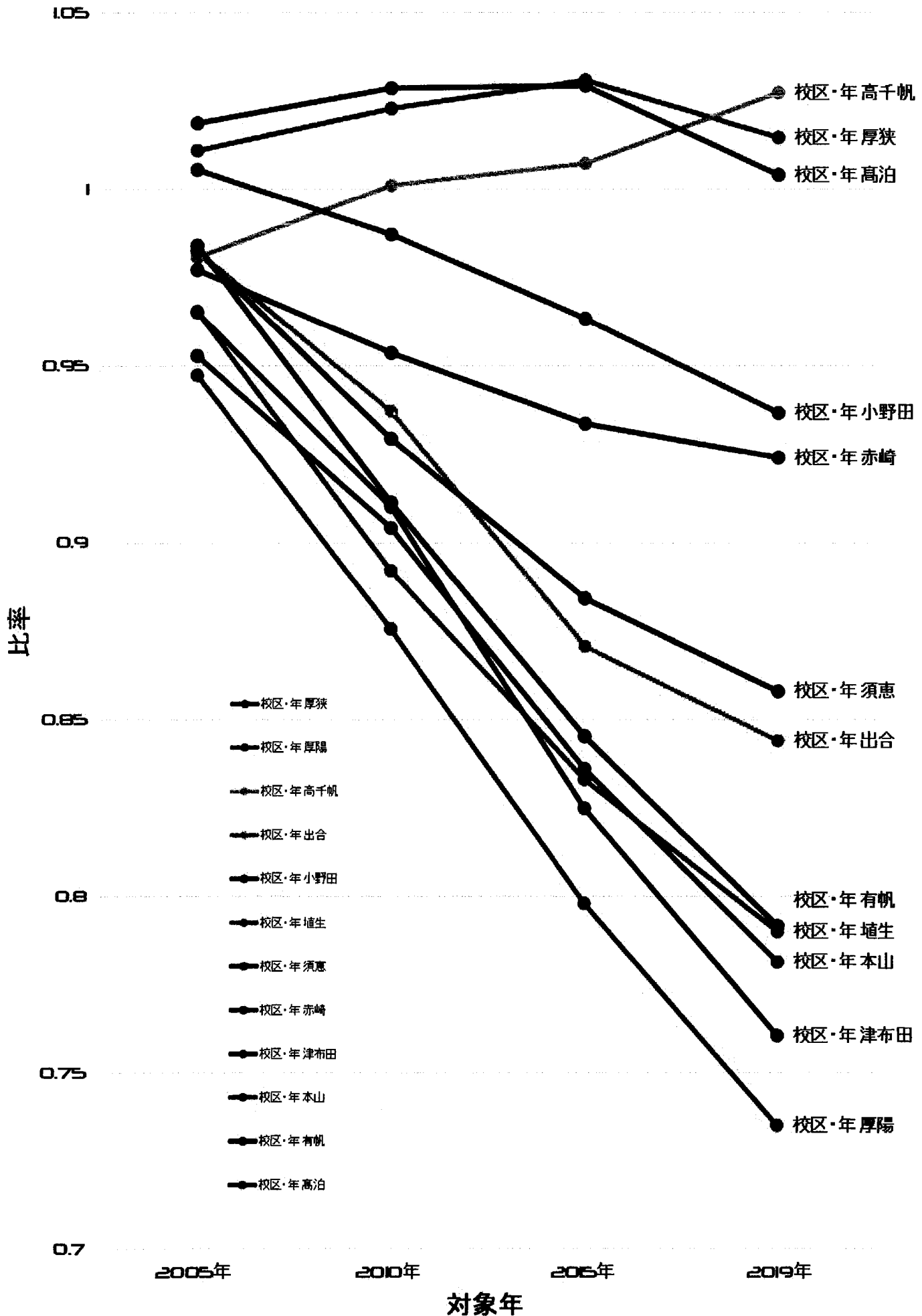


校区・年	小学校区人口推移（各年4月1日時点）								
	2000	2005	対2000年比	2010	対2000年比	2015	対2000年比	2019	対2000年比
本 山	3,963	3,776	0.953	3,583	0.904	3,313	0.836	3,096	0.781
赤 崎	5,456	5,331	0.977	5,203	0.954	5,094	0.934	5,041	0.924
須 恵	9,754	9,583	0.982	9,065	0.929	8,624	0.884	8,368	0.858
小 野 田	6,598	6,634	1.005	6,513	0.987	6,356	0.963	6,180	0.937
高 泊	4,362	4,443	1.019	4,486	1.028	4,489	1.029	4,379	1.004
高 千 帆	11,137	10,921	0.981	11,148	1.001	11,217	1.007	11,439	1.027
有 帆	4,857	4,779	0.984	4,426	0.911	4,105	0.845	3,844	0.791
厚 狭	10,312	10,424	1.011	10,546	1.023	10,628	1.031	10,461	1.014
出 合	3,356	3,297	0.982	3,145	0.937	2,922	0.871	2,832	0.844
厚 陽	2,716	2,573	0.947	2,378	0.876	2,167	0.798	1,996	0.735
埴 生	5,149	4,971	0.965	4,593	0.892	4,289	0.833	4,067	0.790
津 布 田	1,490	1,438	0.965	1,356	0.910	1,229	0.825	1,133	0.760
	69,150	68,170	0.986	66,442	0.961	64,433	0.932	62,836	0.909

各小学校区の人口推移 対2000年比



平成30年度決算の売掛金の推移

業者名	30年度 決算額	令和元年 11月末	業者名	30年度 決算額	令和元年 11月末
小野田青果販売	15,470,224	11,838,398		2,355,803	2,355,803
	2,601,664	291,924		86,997	0
	2,210,571	3,466,270		42,361	42,361
	1,542,449	1,062,449		597,233	603,562
	1,426,072	1,235,072		20,600	8,691
	1,414,470	2,659,819		△ 10	0
	1,000,027	980,027		0	688,500
	840,193	1,188,438	その他	0	851,194
	185,000	120,000		0	209,665
	15,484	117,053		352,116	352,116
	9,323	22,180		272,484	0
	40,200	59,647		5,111	0
	30,328	0		231,011	231,011
	△ 2,594	0		171,202	0
	27,326	1,236	その他 計	8,630,760	17,781,119
	369,239	369,239	売掛金 計	35,136,430	40,503,516
	△ 13,635	0			
	9,976	9,976			
	404,229	404,229			
	7,935	7,935			
	945	945			
	4,203	3,966			
	230,227	230,227			
	5,749	5,749			
	38	38			
	9,558	0			
	1,008	5,425			
	2,750	0			
	2,940	2,940			
	△ 7,976	1,126,736			
	11,904	228,167			
	△ 603	0			
	1,878	2,094			
	8,366	8,010			
	119,627	286,871			
	29,389	29,389			
	1,944	13,181			
	67,365	1,917,237			
	0	0			
	△ 1,458	0			
	674,857	674,857			
	50,000	50,000			
	0	549,547			
	0	1,987,548			
	0	1,343,844			
	332,409	0			
	1,265,948	1,265,948			
	569,052	1,435,536			
	23,328	34,998			
	9,593	123,468			

その他

平成30年度決算の買掛金の推移

業者名	30年度決算額	令和元年11月末
	40,222,145	59,873,648
小野田青果販売	5,564,174	10,425,709
	1,407,483	1,394,950
	1,763,218	0
	767,859	1,032,885
	341,592	1,261,202
	382,094	1,472,315
	35,964	35,953
	10,080	10,080
その他	998,030	0
	195,851	0
	131,834	0
	△ 15,267	0
	368	0
その他 計	2,080,546	2,779,550
計	51,805,425	75,506,742

ちろ特報部

「防衛省はレーダーの出力を明かしておらず、狙った角度の外側に出る「サイドローブ」の電波の影響を予測できない。国は住民の疑問に答えていない」。

宇宙監視レーダーとイリス・アシヨアを調べている増山博行・山口大名堂教授（物理学）が指摘する。

「イリス・アシヨアと同様、米からの強い要請を感じている。ミサイルを迎撃し、人工衛星を守るだけで安全や平和は守れない。安保法制以後、軍事力を背景に安全を確保しようとする議論が強まっており、監視を怠ってはならない」

防衛省は「総務省の電波防護指針を守り、人体に影響が出ないように設計する」と強調するものの、発射する電波の出力を公表していない。その上で、説明会資料で「上空でのみ電波を発射」としているが、実際には赤道上空の衛星を監視するため、地面に対して二〇度の浅い角度となる。自衛隊が計画地から二キロの無機物山清二（さんせい）は「四万キロの宇宙まで届くレーダーだから、出力は大きいはず。住民に影響がないという根拠がなく、懸念はクリヤされていかなければならない」

近頃の時の住職（ゆき）は「衛星を自衛隊が守るという話」を聞いて、山田伸幸議員に「防衛省はレーダーの出力を明かしておらず、狙った角度の外側に出る「サイドローブ」の電波の影響を予測できない。国は住民の疑問に答えていない」と指摘する。

「最初の攻撃目標になる」



争いなり、最初に攻撃目標になるだろう。民間と軍事の垣根がなくなってきた」と語る。

JAXA「軍と違い常時対応は困難」

現在、国内でスペースデブリを監視しているのは宇宙航空研究開発機構（JAXA）だ。約二万三千個あるとされる十キロ以上のデブリのうち、一万五千個が集中する高度十キロ前後を岡山県鏡野町のレーダーで監視。二千個が漂う三万五千キロ前後を岡山県井原市の光学望遠鏡で監視している。JAXAが運用している衛星を「見る」が目的で、実際に衝突を避けるために衛星の軌道を変えることが、年に六回ほどあるという。

宇宙監視レーダーとイリス・アシヨアを監視し続ける増山博行・山口大名堂教授（9月、山口県宇部市で）
JAXAが「スペースデブリ」を監視している望遠鏡（岡山県井原市で）



このレーダーと望遠鏡は、宇宙監視の体制を構築するとして宇宙基本計画に基づき、二三年間で更新される予定。レーダーはデブリの軌道を変え、防衛省のレーダーは必要なのか。JAXAは「追跡ネットワーク技術センターの中核メンバーとして、主幹研究開発員（主幹）として監視業務がある」と観測できない。梅雨で一週間観測できないというデブリの軌道が変わる。防衛省のレーダーは天候に左右されず、データを集められるので、「こちらも助かる」と語る。

米、強い要請が 薄れる軍民の垣根

日本に対応する窓口は防衛省になる」と中村氏。JAXAの施設で監視を担当しているのは十人ほど。システム更新の予算は一九、二〇年度合わせて二十四億円。防衛省とは桁違いに少ない。中村氏は「うちがデータ解析の蓄積があるが、研究機関なので、デブリを脅威としてとらえている軍とは取り組む姿勢が違ふ。研究なら晴れた夜だけの観測でも許されるが、常時対応を求められると厳しい」と明かした。JAXAは現在、防衛省から二人の出向者を受け入れ、いずれも宇宙監視を担当している。二一年にはJAXA法が改められ、その事業を平和目的に限るという規定をなくした。日本は米軍と歩調を合わせようとして、宇宙の軍事利用に着々と進みつつある。

二十日、米国は約七十年ぶりの独立軍として「宇宙軍」を創設した。その目的には、人工衛星の防衛強化が含まれる。防衛省の宇宙監視レーダーも、きつとその強化策の一環だろう。イリス・アシヨア同様、日本の防衛ではなく、米国を守るための軍事施設が、日本にまた増える。（歩）